10 主題を読み取ろう

●慣用句(2)

例題 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私はもらわれて行った家の母より、実の母がやはり厳しかったけれど、楽な気がして話されるのであった。

「お前おとなしくしておいでかね。そんな一日に二度も来ちゃいけませんよ。」

「だって来たけりゃしようがないじゃないの。」

「二日に一ぺんくらいにおしよ。そうしないとあたしがお前をかわいがりすぎるように思われるし、お前のうちのお母さんにすまないじゃないかね。え。わかって——。」

「そりゃわかっている。じゃ、一日に一ぺんずつ来ちゃ悪いの。」

「二日に一ぺんよ。」

私は母とあうごとに、こんな話をしていたが、実家と注一町と離れていなかったせいもあるが、約束はいつも破られるのであった。

私は母の顔をみると、すぐに腹のなかで「これが本当のお母さん。自分を生んだおっかさん。」と心のそこでいつもつぶやいた。

「おっかさんはなぜ僕を今のおうちにやったの。」

「お約束したからさ。まだそんなことをわからなくてもいいの。」

と、母はいつも答えていたが、私は、なぜ私を母があれほど愛しているにかかわらず他家へやったのか、なぜ自分で育てなかったかということを疑っていた。

（室生犀星『幼年時代』）

注　一町＝長さの単位。一町は約百九メートル。

めあて

○ あらすじや登場人物の心情を読み取って、主題をつかもう。

1 ——線部「二日に一ぺんくらいにおしよ」とありますが、どんなことを「二日に一ぺんくらい」にしろと少年（「私」）に言っているのですか。十字以内で書きなさい。

2 この文章は、どんなことを主題としていますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　実の母といつも会っていたいのに、それが許されない、少年の切ない気持ち。

イ　久しぶりに会った実の母との会話を楽しむ、少年の幸福な気持ち。

ウ　自分を他家へやった理由を教えてもらえず、実の母をにくむ少年の気持ち。

エ　今の母と実の母のどちらを愛したらいいのかわからず、思いなやむ少年の気持ち。

〔　　〕

1 解説

主題とは、作品を通して作者が読者に最も強く伝えたいことがらです。文学的文章では「主題」、説明的文章では「要旨」といいます。説明的文章では、多くの場合、結論の段落に要旨がまとめられていますが、文学的文章では、主題がはっきりとした形でまとめられていることはほぼありません。

主題を読み取るためには、まず、あらすじや登場人物の心情をおさえることが大切です。

――線部の意味をおさえて、あらすじをつかみましょう。

まず、登場人物と、主人公の少年が置かれている立場をおさえる。

登場人物

・少年　・少年の実の母

少年が置かれている立場や事情

「私はもらわれて行った家の～
「おっかさんはなぜ僕を今のおうちにやったの。」

線部などから、少年は他の家にもらわれて行ったことがわかる。

次に、二人のやりとりに着目して、――線部の意味を正しくつかむ。

母　「そんな一日に二度も来ちゃいけませんよ。」
少年「だって来たけりゃしようがないじゃないの。」
母　「二日に一ぺんくらいにおしよ。」

少年が一日に二度実家に来たため、母が少年に実家に来る回数を減らすように言っている。

答え　実家に来ること。

2 解説

多くの場合、主題は物語が最ももり上がる部分（「山場」または「クライマックス」という）にえがかれています。山場にえがかれているできごとや登場人物（特に主人公）の心情に着目して、主題をとらえます。

主人公である少年の心情に着目して、主題をとらえましょう。

少年の気持ちが強く表れている、次の二か所に着目する。

私は母の顔をみると、すぐに腹のなかで「これが本当のお母さん。自分を生んだおっかさん。」と心のそこでいつもつぶやいた。

私は、なぜ私を母があれほど愛しているにかかわらず他家へやったのか、なぜ自分で育てなかったかということを疑っていた。

線部に着目することで、自分ではどうすることもできない事情の中で、実の母を思う少年の切ない気持ちがこの文章の主題であるとわかる。

答え　ア

主題のとらえ方・手順

①作品全体のあらすじをつかむ。
②文章の流れから山場をさがす。
③山場にえがかれているできごとや登場人物の心情に着目し、作者がその作品で最も強く伝えようとしていることを読み取る。主人公の精神的な成長や、主人公の考え方にも着目する。